

## 平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	広島県立広島北特別支援学校		
学校長氏名	三浦 直宏	栄養教諭氏名	藤井 幸江
職員数	140名	児童・生徒数	263名

## 1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

保健安全部を中心に取り組んでいる。

給食の完食率の向上を目標として3年目である。

今年度も昨年度に引き続き、リクエスト献立を児童生徒が考えるよう取り組んだ。また、掲示ポスターと放送を児童生徒が主体で出来るよう取り組んだ。

## 2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

学校経営計画：給食の完食率の向上

## 3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 高等部3年生家庭科

栄養バランスについて学習後、主食はごはん、飲み物は牛乳に決めておき、生徒たちが給食の主菜、副菜、汁物を考えた。考えたリクエスト献立は、学校給食で実施した。

【取組2】（テーマ） 健康教室

小学部1年生～高等部2年生で行い、学年の実態に応じて栄養バランスについて学習し、その後リクエスト献立を考えた。小学部は事前に担任が選んだメニューの中から好きなメニューの一つ、中学部と高等部1年生・2年生は事前に担任が選んだメニューの中から主菜と副菜を考えた。考えたリクエスト献立は、学校給食で実施した。

【取組3】（テーマ） 掲示など

リクエスト献立実施の当日に掲示ポスターを食堂前に掲示した。掲示ポスターは事前に該当クラス・学年で作成した。自分たちが考えたリクエスト献立の放送もほとんどのクラスで行った。

実施後は、掲示ポスターと児童生徒のコメントを食堂横の掲示板に掲示した。

高等部3年生に、自分たちが考えた献立を冊子にして配付した。



## 4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

各クラスに「ひろしま給食100万食プロジェクト」のシール貼付用台紙を配付し、児童生徒が食べたり作ったりした食数をシールで貼りやすくした。「ひろしま給食100万食プロジェクト」のポスターは食堂前に掲示した。

昨年度に引き続き、県内の特別支援学校の栄養教諭・学校栄養職員全員で、県内産の食材を使用し、児童生徒が食べやすい献立を考え、ひろしま給食実施日に提供した。(配付プリントは別紙)

また、保護者を対象に給食試食会を行い、「ひろしま給食100万食」を給食試食会に取り入れ、「ひろしま給食100万食」の取組について説明した。

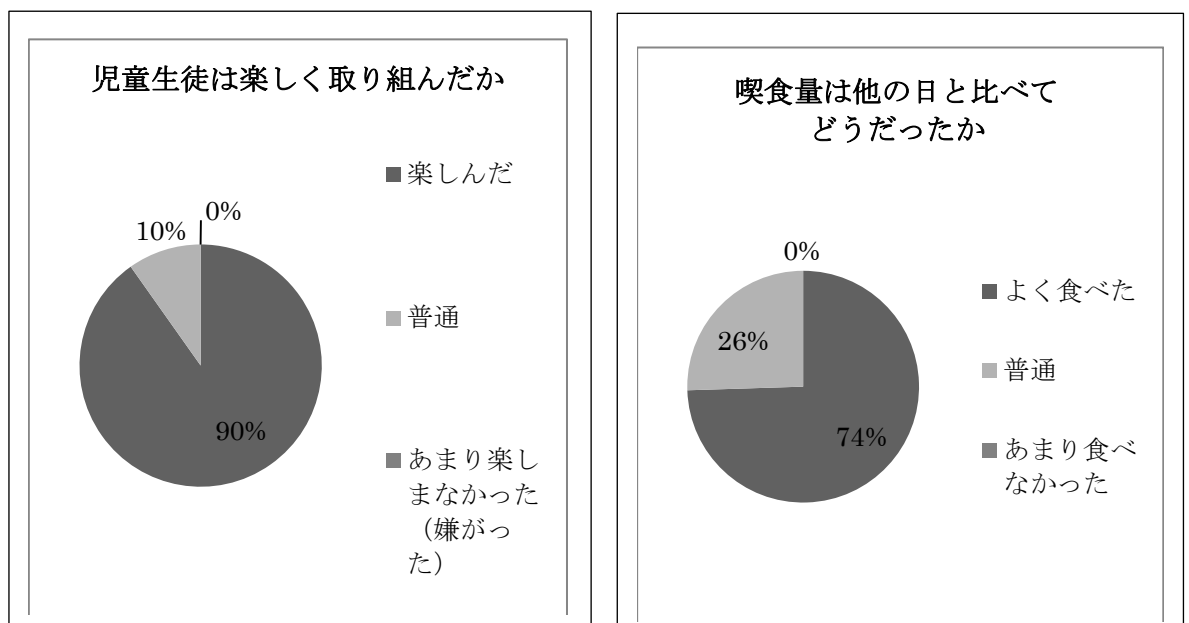
## 5 取組に対する成果と課題

### 【成果】

取組1では、献立に使用する食材に季節の食材を取り入れるなど、楽しく、積極的に考えることができた。

リクエスト献立の放送で、放送した児童生徒は、やり遂げた達成感を得、放送を興味深く聞く児童生徒が多く、放送する側と聞く側双方にとって成果があった。

掲示ポスターは該当クラス・学年の特徴や楽しい雰囲気がわかり良かった。又、掲示ポスターの前を通るたびに、思いだし、興味をもつ児童生徒が多くいた。



### 【課題】

リクエスト献立を決めてから、実際にリクエスト献立が実施されるまでの期間が長い。5か月くらい先になることもあった。時間が経つと自分たちが考えたという実感が薄れる。

## 6 今後の取組に向けた改善方策について

現在は、リクエスト献立が実施される月に作成している各クラス・学年の掲示ポスターを、今後は献立を考えた直後に作成するよう取り組みたい。